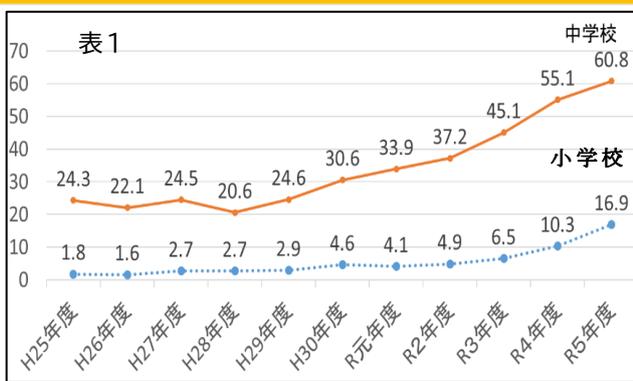


子どもの小さな変化を見逃さない!



1. 上越市の不登校・不登校傾向児童生徒の現状

市の小・中学校の1000人あたりの不登校児童生徒数の推移



1000人あたりの不登校児童生徒数の推移(小中合計)



令和5年度の上越市の30日以上欠席した不登校児童生徒の人数は、中学生264人、小学生140人と過去最多となりました。市内小・中学校の1,000人あたりの不登校児童生徒数の小中学校別推移(表1)も、平成29年度頃から増加の割合が拡大し、令和5年度は、小学生16.9人、中学生60.8人となりました。また、令和4年度までのデータでは、当市の小・中学校の1000人あたりの不登校児童生徒数の割合(表2)は、国や県と比較すると大きく下回り、学校や市の取組の成果ともとれますが、増加傾向が続いており、更なる取組が必要だと考えています。

表3 全国の不登校の要因

要因		割合(%)
学校	いじめを除く友人関係をめぐる問題	9.2
	学業の不振	4.9
家庭	親子の関わり方	7.4
	家庭の生活環境の急激な変化	2.6
本人	無気力、不安	51.8
	生活リズムの乱れあそび、非行	11.4

例えば、不登校の要因から考えると、全国の調査(表3)では、学校要因が14.1%、家庭要因が10.0%、本人要因が63.2%でした。上越市も同様に、要因として「本人」に起因するものが多く、その中で一番多いのは「無気力・不安」です。相談や支援を繰り返して、なぜ「無気力・不安」になってしまったのかという背景を探り、児童生徒に寄り添い、不登校の解消及び自立へつながる適切な支援を充実させていくことが大切だと考えています。

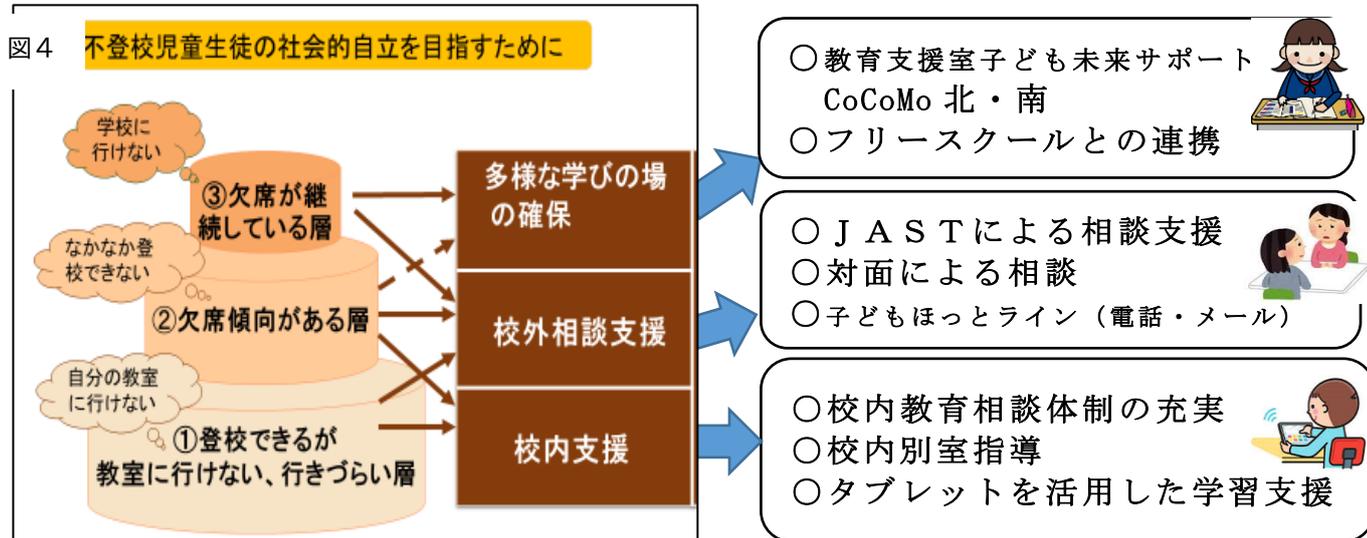
「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。



2. 不登校・不登校傾向児童生徒への具体的な対応と方策

国は、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策『COCOLOプラン』を示し、「学びたいと思ったときに学べる環境の整備」などの推進を求めています。

上越市でも、下の図4のように、子どもの状況を三つの層に整理しながら、それぞれの子どもの最適な支援ができるよう取組を行っているところです。ぜひ、学校からも、不登校が心配な子どもたちや保護者に、現在行っている市の取組で、その子の状況に合った支援が受けられそうなものを紹介し、相談を勧めていただきたいと思います。



3. まず大切なのは…。

「支援ニーズの早期の把握」と「初期の対応」です。そのためには、子どもの小さな変化を見逃さないことが大切です。子どもの近くにいる教職員だからこそ「ちょっとした変化」に気付くことができます。日頃から、子どもたちの言葉・行動・表情に気を配ると同時に、友人関係や学習への取組等、アンテナを高く張り、子どもの小さな変化をキャッチしてください。

次のような様子が見られたら、まずは、じっくり話を聴きましょう。これらの様子は、「子どもの心が疲れているサイン」（教育センター発行の「保護者のためのリーフレット」参照）です。じっくり話を聴いて受け止めることで、子どもの心に「分かってもらえた」「心配してくれている」という安心感が生まれ、それが自信となって、前向きに頑張る力になっていきます。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 遅刻、早退が増える | <input type="checkbox"/> 頻繁に体の不調を訴える |
| <input type="checkbox"/> 保健室利用が増える | <input type="checkbox"/> 成績が急に低下する |
| <input type="checkbox"/> 体育の授業の見学が増える | <input type="checkbox"/> 部活動の欠席が目立つ |
| <input type="checkbox"/> 表情がさえない | <input type="checkbox"/> 不安定な様子が見られる |
| <input type="checkbox"/> 一人で過ごすことが多い | <input type="checkbox"/> 月曜日に欠席が多い |
| <input type="checkbox"/> 連休後、長期休業後に欠席が目立つ | など |

次に、欠席があった際は、確実に「子どもとともに1・2・3運動」を実践してください。まず子どもや保護者の信頼を得て、「つながり」をもち続けることが大切です。これからも、子どもや保護者との不断の「かかわり」を大切に、ニーズに寄り添った

温かな支援が継続されるようお願いします。その際、家庭訪問や電話連絡の頻度、再登校への働きかけのタイミングなどは、子どもの心の疲れ具合を適切に読み取り、保護者の意向を十分に汲み取った「つながり」となるよう配慮してください。小さなSOSでも、担任一人ではなく「チーム学校」で対応し、最適な支援につなげてください。

(担当 学校教育課指導主事 丸山)



「子ども未来サポート CoCoMo」を利用してみませんか ～ CoCoMo は家庭と学校以外のもうひとつの新しい居場所です ～

子ども未来サポート CoCoMo は、国が示している方向性のひとつである「不登校児童生徒の意思を十分に尊重しつつ、その状況によっては休養が必要な場合があることも留意しつつ、個々の児童生徒の状況に応じた支援を行うこと」という基本理念のもとに「教育機会の確保」「社会的自立を目指した支援」を意識して通室生の支援を進めています。



CoCoMo は平日の 9:15～15:30 に開室していますが、通室日数や在室時間は、本人及び保護者の希望で設定します。ほぼ毎日、週 1～2 日ペース、不定期に気持ちが向いた日に通室。

お弁当持ちで 1 日、午前または午後だけ、ごく短時間で切り上げて図書館に向かうも OK です。学習場面では指導員による授業形式ではなく自主学習のスタイルをとっています。

個別の支援も子どもから求めがあった時のみ行い、自分がやりたい内容を、自分のペースでゆったりと机に向かうことができるようにしています。ひとりで静かに過ごしたい子、自己表現が苦手な子、指名やグループ学習での発言を負担に感じる子どもたちへの配慮です。また、CoCoMo には楽しく過ごす時間もたくさんあります。勉強の後に一人で読書やパズルに熱中する子、指導員との卓球やオセロでの対戦に挑む子。最近は誘い合ったメンバーで、カードゲームやボードゲームで盛り上がることも増えてきました。学校も学年も異なる仲間と楽しみながら会話し、大いに笑い、コミュニケーション力を高めています。



“通室生の明るい未来を応援する”という願いを込めた「子ども未来サポート」 “ここもあなたの居場所だよ♪”というメッセージを込めた「CoCoMo (ここも)」。

「子ども未来サポート CoCoMo」の名称にはこのような思いが詰まっています。

<子ども未来サポート CoCoMo は 2 か所で開設しています>

○CoCoMo 南：上越市西城町 1 - 1 2 - 4 (シルバープラザ上越 4 F) TEL 025-522-2428

○CoCoMo 北：上越市中央 1 - 3 - 1 8 (直江津学びの交流館 1 F) TEL 025-545-0780

※興味のある方はぜひ見学においでください。お電話をお待ちしています。

(担当 教室支援室 CoCoMo 北指導員 諏訪)



多様な性を理解する

上越市では、性的指向や性自認にかかわらず、市民一人一人が尊重され、安全で安心して暮らすことのできるまちを目指し、パートナーシップ宣誓制度を導入しました。

この制度は、性的マイノリティの人の悩みや生きづらさの軽減、差別や偏見の解消のほか、性の多様性についての理解の促進につなげていくものです。

学校においても、すべての教職員が「どの学級にも性別に違和感をもつ子どもがいる」という認識をもち「性は多様で一人一人違う」ことを理解した上で、多様性を認め合える環境づくりに向けた取組を行うことが大切です。

以下に、性の多様性についての基礎的な内容を掲載しましたのでご覧ください。

1 性を構成する要素 SOGIE（ソジー）

私たちの性のあり方は、身体的な男女の性別のみではなく、全ての人が持っている性を構成する要素である、「好きになる性」、「心の性」、「表現する性」の3つの要素（SOGIE（ソジー））が組み合わさって、一人一人の性のあり方が決まると考えられています。

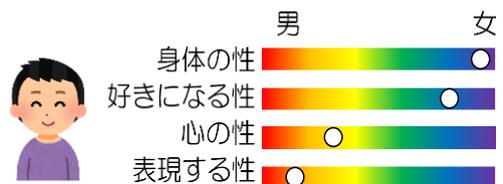
性的マイノリティの人だけでなく、みんなが多様な性の当事者です。



2 性のあり方は人それぞれ

「性」のあり方は、グラデーションのように境目がなく、個人によって異なります。

例えば身体の性は「女性」で好きになる相手は「女性」、心の性はどちらかという「男性」で、「男性」のファッションが好きという人もいます。



3 多様な性のあり方 LGBTQ+（エルジービーティーキュープラス）

SOGIE（ソジー）が、多くの人とは異なっている人たちの総称をLGBTQ+とといいます。LGBTQ+の人は人口の9.7%との調査※があります。

（※出典：㈱電通グループLGBTQ+調査2023）

レズビアン	Lesbian	心の性が女性で、好きになる性も女性の人
ゲイ	Gay	心の性が男性で、好きになる性も男性の人
バイセクシュアル	Bisexual	好きになる性が異性の場合も同性の場合もある人
トランスジェンダー	Transgender	身体の性と心の性が異なる人
クエスチョニング	Questioning	心の性や好きになる性がわからない人、決まっていない人
プラス(+)	+	恋愛感情を持たない人など、LGBTQに当てはまらない人

（出典：上越市人権・同和对策室「多様な性について考えよう」チラシ）

（担当 学校教育課指導主事 曾根原）